

新しい中等教育を目指して

登別市の中高一貫教育に向けたこれまでの取り組み

平成9年4月
『公立高等学校の新しい在り方を考える会』(会員42名)発足。「学校としての基本理念を明確に」「生徒の個性を重視した新しいタイプの高等学校を」「ゆとりある教育の実現を目指した、登別高校の改築を」など、4項目についてとりまとめ、市へ提言。

平成10年7月
市が『公立高等学校の新しい在り方を考える会』からの提言を基に『登別市における公立高等学校の新しい在り方』を策定し、北海道教育委員会へ要請。

平成11年5月
『教育改革の推進に関する研修会』開催(P T A役員ほか83人参加)
演題『日本の中高一貫教育について』

平成11年7月
登別市の全庁的取り組みとして中高一貫校の推進を図る庁内組織『登別市中高一貫校推進会議』発足。

平成11年12月
市議会が、市が要望している中高一貫校『中等教育学校』を積極的に誘致することを要旨とした『中高一貫校「中等教育学校」誘致に関する決議』を議決。

平成11年9月
『平成12年度公立高校の間口減と中等教育学校を考える懇談会』開催(市内小・中学校教諭など102人参加)
・平成12年度公立高校の間口減への意見交換
・中等教育学校の特色についての意見交換

平成11年11月
中高一貫校「中等教育学校」の早期誘致を目指す『中高一貫校「中等教育学校」誘致期成会』(14団体により構成)発足

平成12年6月
『登別の教育を考える市民会議』(自然体験部会27人・中等教育学校部会28人)発足。中等教育学校部会より、登別市の中等教育振興のためには中等教育学校の設置が必要との提言。

現在、市は、道内ではまだ設置されていない中等教育学校を北海道のモデル校として設立するよう誘致を進めています。

北海道が計画している中高一貫教育校『中等教育学校』の設置は、その先駆的な役割から、一極集中の進む札幌圏など大都市圏ではなく、地方の中小都市がふさわしいと考えま

登別市は『中等教育学校』設立の適地です

個性をより重視した教育を行うことのできる中高一貫教育校『中等教育学校』や『連携型』、あるいは総合学科のさらなる導入による選択肢の多い学校の設置など、生徒の個性を生かし、生徒の主體的な学習が推進できる多様な高校群の形成が、胆振第1学区には必要と考えています。

また、町村地域にあつては域内の学校数が複数となりにくいことから生徒の学校選択肢が狭く、本来の中等教育学校としての設置の効果が期待できません。

モデル校の設置については、登別市は海や山、川など豊かな自然に恵まれるとともに、交通利便性の優れた道央圏に位置し、近くに室蘭工業大学や専門学校もあることや、日本有数の温泉観光地登別温泉を擁し、観光施設の開設を機にデンマークのリング、ウイスリング両市と活発な市民交流が継続されていることなど、個性豊かなまちとしてほかにはない優れた教育資源に恵まれており、中高一貫教育校『中等教育学校』の設置には最適の環境がそろっていると考えています。

『中等教育学校』誘致の輪を広げよう

登別市内では、国や道による高校教育改革と期を同じくして、平成9年には、教育関係者や広範な市民参加による『新しい公立高等学校のあり方を考える会』により、「生徒の個性を重視した新しいタイプの高等学校を」など、4項目の提言があつたほか、平成11年には『教育改革の推進に関する研修会』、平成12年度公立高校の間口減と中等教育学校を考える懇談会』の開催、さらに『中高一貫校「中等教育学校」誘致期成会』が結成され、『中等教育学校』誘致への機運が大きくなっています。



『中高一貫校「中等教育学校」誘致期成会』

中高一貫教育に関するご意見・お問い合わせは、

教育委員会総務課

☎88 1 1 0 0

FAX 88 9 7 4 4

Eメール: kyoisoumu@city.noboribetsu.hokkaido.jp

高まりました。

また、平成12年には、『登別の教育を考える市民会議』が『中等教育学校』の早期設置を要望するなど、次代を担う子供たちのための熱心な議論が積み重ねられてきました。

市では、全庁的な取り組みを進めるため、『登別市中高一貫校導入推進会議』を設置するとともに、重点要望事項として、市議会とともに、北海道知事や北海道教育委員会教育長へ対し、粘り強く要望活動を重ねています。

市は、中高一貫教育校『中等教育学校』モデル校の誘致は、『活気あふれるまち』『文化のかおりの高いまち』をつくるために、ぜひとも必要なものであり、市民のみなさんにより理解を深めていただき、市民と行政が一体になった形で登別への中高一貫教育校『中等教育学校』設置を実現したいと考えています。

市民のみなさん一人ひとりのご理解とご協力をお願いします。